

# 担い手に関するアンケート調査票

資料3-1

|          |    |  |   |                   |                                                  |
|----------|----|--|---|-------------------|--------------------------------------------------|
| 名称又は会社名等 |    |  |   | 担当者<br>役職・<br>ご芳名 |                                                  |
| 住所       | 〒  |  | － |                   |                                                  |
|          |    |  |   |                   |                                                  |
|          | 電話 |  |   | FAX               |                                                  |
| Eメール     |    |  |   |                   | ※本調査に関する照会の他、道からの各種情報提供や調査の依頼等に使用させていただく場合があります。 |

## 1 会社の概要

〔問1〕 貴社・団体の事業内容について、当てはまるものを選んでください。（複数回答可）

- ☐ 1 林業（素材生産）
 ☐ 2 林業（造林（植付、下刈、その他））
 ☐ 3 苗木生産
 ☐ 4 木材産業・加工業

〔問2〕 貴社・団体における従業員のうち、林業・木材産業（苗木生産を含む、以下同様）に従事する現場従業員の人数を教えてください。

(R6年4月1日現在) (雇用形態内訳)
 1 通年雇用  人  
 従業員数  人 → 2 定期雇用  人  
 3 臨時雇用  人

※事務職員（庶務・経理に従事し、現場作業は行わない職員）は除いてください

- ※ 1 通年雇用：年間を通じて雇用される者  
 ※ 2 定期雇用：被保険者期間が通算して6ヶ月以上1年未満の雇用の者  
 ※ 3 臨時雇用：通年、定期以外で一時的に雇用される者（派遣社員を含む）

## 2 従業員の確保状況

〔問1〕 過去3年間の新規採用者数について教えてください。

|      | 採用人数                   | (経歴別内訳) | ① 高卒                   | ② 大学・短大等卒              | ③ 林業大学校等卒              | ④ 社会人(林業・木材産業)         | ⑤ 社会人(他業種)             | ⑥ その他                  |
|------|------------------------|---------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| R6年度 | <input type="text"/> 人 | →       | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 |
| R5年度 | <input type="text"/> 人 | →       | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 |
| R4年度 | <input type="text"/> 人 | →       | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 | <input type="text"/> 人 |

- ※ ①高卒：高等学校卒業生（普通高校、農業高校など）  
 ※ ②大学・短大等卒：4年生大学、短期大学、高等専門学校、大学校、専門学校などの卒業生  
 ※ ③林業大学校等卒：北森力レッシなど都道府県立林業大学校等の林業に関する教育機関  
 ※ ④社会人(林業・木材産業)：転職者で、林業・木材産業への就業（通年・定期雇用）の経験がある者  
 ※ ⑤社会人(他業種)：転職者で、林業・木材産業への就業（通年・定期雇用）の経験がない者  
 ※ ⑥その他：自営業、臨時雇用（アルバイト）、家事手伝いなど、上記以外の者  
 ※ 新規採用人数は、各年度内に採用した通年雇用者の人数とし、採用後に離職した者も含めて記載

〔問2〕 問1の採用状況について、貴社・団体が必要とする人材の数や質は確保できていると思いますか。  
当てはまるものを選んでください。

(1) 人材の「数」（1つ選択）

- ☐ 1 確保できている
 ☐ 2 おおむね確保できている  
☐ 3 あまり確保できていない
 ☐ 4 確保できていない  
☐ 5 わからない

(1)で選択した具体的な理由をお書きください

（記載例）

- ・毎年必要な人数を採用できており、不足感はない
- ・ハローワークに求人をを出しているが、人が集まらない状況 など

(2) 人材の「質」(1つ選択)

- |                                        |                                        |
|----------------------------------------|----------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 確保できている     | <input type="checkbox"/> 2 おおむね確保できている |
| <input type="checkbox"/> 3 あまり確保できていない | <input type="checkbox"/> 4 確保できていない    |
| <input type="checkbox"/> 5 わからない       |                                        |

※人材の質：会社が考えている、採用者が持つべき知識や技能など

(2)で選択した具体的な理由をお書きください

(記載例)

- ・若くてやる気がある人を採用できている
- ・新規高卒者を採用しても、すぐに現場作業を行えない など

3 必要とする人材の要件について

〔問1〕 必要とする条件(経歴、年齢、採用する際の居住地)について当てはまるものを選んでください。

(1) 学歴・経歴について(複数回答可)

- |                                    |                                       |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 高校卒業程度  | <input type="checkbox"/> 2 大学・短大等卒業程度 |
| <input type="checkbox"/> 3 林業大学校等卒 | <input type="checkbox"/> 4 林業経験者      |
| <input type="checkbox"/> 5 不問      |                                       |

(2) 年齢について(複数回答可)

- |                                  |                                |
|----------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 10代   | <input type="checkbox"/> 2 20代 |
| <input type="checkbox"/> 3 30代   | <input type="checkbox"/> 4 40代 |
| <input type="checkbox"/> 5 50代   | <input type="checkbox"/> 6 60代 |
| <input type="checkbox"/> 7 70歳以上 |                                |

(3) 採用する際の居住地について(複数回答可)

- |                                       |                                      |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 事業所と同一市町村内 | <input type="checkbox"/> 2 事業所の近隣市町村 |
| <input type="checkbox"/> 3 道内         | <input type="checkbox"/> 4 不問        |

〔問2〕 望む人材像について当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

- ☐ 1 現場や工場で即戦力として活躍できる人材
- ☐ 2 現場や工場での作業を統括管理できる人材
- ☐ 3 施業集約化など、施業プランの作成・提案ができる人材
- ☐ 4 地域の森林・林業に関する指導や助言を行える人材
- ☐ 5 地域の課題解決や活性化に進んで協力できる人材
- ☐ 6 地域の木材利用に進んで協力できる人材
- ☐ 7 販売促進・マーケティングなど会社経営を担う人材
- ☐ 8 会社の後継者
- ☐ 9 その他 [ ]

4 林業・苗木生産に従事する現場従業員の育成について

※事業内容が「林業」「苗木生産」  
の方のみお答えください

〔問1〕 貴社・団体における現場従業員の育成について、当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

- ☐ 1 日常の業務を通じた現場教育の推進
- ☐ 2 緑の雇用等の既存研修の活用
- ☐ 3 講師を招いた社内研修の実施
- ☐ 4 知見を広げるための視察等の実施
- ☐ 5 資格取得などの自己研鑽の奨励
- ☐ 6 特に取り組んでいない

「木材産業」の方は、4 ページ目  
「5 北森カレッジについて」へ

〔問2〕 問1で「6 特に取り組んでいない」と回答した理由について、当てはまるものを選んでください。

(複数回答可)

- ☐ 1 育成する時間がない
- ☐ 2 育成するための負担が大きい
- ☐ 3 取り組む必要性を感じない
- ☐ 4 社内に指導できる人がいない
- ☐ 5 対象者がいない（通年雇用の新規就業者を近年雇っていないなど）
- ☐ 6 その他（ ）

〔問3〕 道に期待する現場従業員の教育(再教育を含む)に関する支援施策について、当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

- ☐ 1 自社への講師の派遣
- ☐ 2 地域での出張研修
- ☐ 3 森林整備担い手支援センターでの研修の充実
- ☐ 4 北森カレッジでの従業員の研修等の受入
- ☐ 5 その他（ ）

〔問4〕 貴社・団体で新規に採用した現場従業員を育成していくにあたって、貴社・団体のお考えに当てはまるものを選んでください(複数回答可)。また、選択肢1～3を選択した方は、業務を離れて研修等に参加させることができる最長の期間を選んでください。(1つ選択)

- ☐ 1 作業に必要となる技能を養成する教育機関に一定期間通わせたい
- ☐ 2 北海道森林整備担い手支援センターの各種研修を受講させたい  
(例：「緑の雇用」事業のフォレストワーカー研修、林業担い手研修事業の林業機械研修 等)
- ☐ 3 その他団体や民間会社が実施する研修を受講させたい
- ☐ 4 自社での業務実践（OJT）を通じて育成したい
- ☐ 5 その他（ ）

参加させることができる最長の期間：

- |                                   |                                |                                |
|-----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> a 1年     | <input type="checkbox"/> b 6ヶ月 | <input type="checkbox"/> c 3ヶ月 |
| <input type="checkbox"/> d 1ヶ月    | <input type="checkbox"/> e 2週間 | <input type="checkbox"/> f 1週間 |
| <input type="checkbox"/> g その他（ ） |                                |                                |

〔問5〕 貴社・団体で将来的に企業等の中核を担う従業員として教育していくにあたって、貴社・団体のお考えに当てはまるものを選んでください(複数回答可)。また、選択肢1～3を選択した方は、業務を離れて研修等に参加させることができる最長の期間を選んでください。(1つ選択)

- ☐ 1 経営に必要となる能力を養成する教育機関に一定期間通わせたい
- ☐ 2 北海道森林整備担い手支援センターの各種研修を受講させたい  
(例：「緑の雇用」事業のマネージャー研修、林業担い手研修事業の現場管理研修 等)
- ☐ 3 その他団体や民間会社が実施する研修を受講させたい
- ☐ 4 自社での業務実践（OJT）を通じて育成したい
- ☐ 5 その他（ ）

参加させることができる最長の期間：

- |                                   |                                |                                |
|-----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> a 1年     | <input type="checkbox"/> b 6ヶ月 | <input type="checkbox"/> c 3ヶ月 |
| <input type="checkbox"/> d 1ヶ月    | <input type="checkbox"/> e 2週間 | <input type="checkbox"/> f 1週間 |
| <input type="checkbox"/> g その他（ ） |                                |                                |

## 5 北森カレッジについて

北森カレッジでは、林業・木材産業の「即戦力」となり、「将来的に企業等の中核を担う地域に根差した人材」の育成を教育方針に掲げています。今春に開校5周年を迎えますが、最近の林業の担い手の情勢をふまえながら、北森カレッジで身につけるべき資格の追加や入学時の年齢要件等の見直し、新たな研修コースの設置等、幅広く検討を行っているところであり、関係者の方々のニーズについての確に把握したいと考えております。

(参考) 北森カレッジHP <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/kms/67199.html>

【問1】 貴社・団体と北森カレッジとのこれまでの関わりについて、当てはまるものを選んでください。

(複数回答可)

- ☐ 1 卒業生を採用したことがある  
☐ 2 卒業生の採用に向け、求人票を提出したことがある  
☐ 3 長期就業実践実習（2年生：2週間/回）として生徒を受け入れたことがある  
☐ 4 短期就業体験実習（1年生：4日間/回）として生徒を受け入れたことがある  
☐ 5 地域見学実習（1年生）の見学先として対応したことがある  
☐ 6 北森カレッジの生徒に講義又は実習の指導をしたことがある  
☐ 7 その他 [ ]

【問2】 北森カレッジのカリキュラムで、指導内容を知っているものを選んでください。(複数回答可)

- |                                          |                                     |
|------------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 伐木造材実習        | <input type="checkbox"/> 2 林業機械実習   |
| <input type="checkbox"/> 3 刈払実習          | <input type="checkbox"/> 4 苗畑実習     |
| <input type="checkbox"/> 5 シミュレーター操作実習   | <input type="checkbox"/> 6 木材流通実習   |
| <input type="checkbox"/> 7 長期就業実践実習      | <input type="checkbox"/> 8 フィンランド研修 |
| <input type="checkbox"/> 9 総合選択実習（経営者育成） | <input type="checkbox"/> 10 わからない   |

【問3】 北森カレッジの卒業生に期待する能力について、当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

- ☐ 1 現場や工場で即戦力として活躍できる人材  
☐ 2 現場や工場での作業を統括管理できる人材  
☐ 3 施業集約化など、施業プランの作成・提案ができる人材  
☐ 4 地域の森林・林業に関する指導や助言を行える人材  
☐ 5 地域の課題解決や活性化に進んで協力できる人材  
☐ 6 地域の木材利用に進んで協力できる人材  
☐ 7 販売促進・マーケティングなど会社経営を担う人材  
☐ 8 会社の後継者  
☐ 9 その他 [ ]

【問4】 「即戦力となる人材」になるための教育となっていると思いますか。(1つ選択)

- ☐ 1 大いにそう思う  
☐ 2 ある程度そう思う  
☐ 3 あまりそう思わない  
☐ 4 全くそう思わない  
☐ 5 わからない

- 理由：  
☐ a 現場作業を安全かつ的確に行う技術を習得できていない  
☐ b 川上から川下まで産業全体の基礎知識を習得できていない  
☐ c コミュニケーション能力や協調性が足りない  
☐ d その他 [ ]

〔問5〕「将来的に企業等の中核を担う人材」になるための教育となっていると思いますか。(1つ選択)

- ☐ 1 大いにそう思う  
☐ 2 ある程度そう思う  
☐ 3 あまりそう思わない  
☐ 4 全くそう思わない  
☐ 5 わからない

理由：☐ a 指導や企業経営マネジメントに関する知識を習得できていない  
☐ b 林業・木材産業等の魅力発信能力を習得できていない  
☐ c 地域活性化に貢献する能力を習得できていない  
☐ d その他〔 〕

〔問6〕「即戦力となる人材」や「将来的に企業等の中核を担う人材」を育成するため、現在、北森カレッジの修学期間は2年間としていますが、これについてどう思いますか。(1つ選択)

- ☐ 1 適切  
☐ 2 長い  
☐ 3 短い  
☐ 4 わからない  
☐ 5 その他〔 〕

適切と考える期間：☐ a 1年 ☐ b 6ヶ月 ☐ c 3ヶ月  
☐ d その他〔 〕

適切と考える期間：☐ x 3年 ☐ y 4年  
☐ z その他〔 〕

〔問7〕現在、16の資格等を取得可能なカリキュラムとなっていますが、ほかに取得が望ましい資格等があればお選びください(複数回答可)。

- ☐ 1 森林インストラクター  
☐ 2 林業架線作業主任者  
☐ 3 大型特殊運転免許  
☐ 4 ロープ高所作業特別教育  
☐ 5 その他〔 〕  
☐ 6 特になし

<取得可能な16の資格等>

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 1 上級救命講習            | 9 機械集材装置等の運転の業務          |
| 2刈払機取扱作業者           | 10 車両系建設機械(整地等)運転 (3t以上) |
| 3 伐木等業務従事者          | 11 走行集材機械運転業務            |
| 4 玉掛け               | 12 簡易架線集材装置等運転業務         |
| 5 小型移動式クレーン運転       | 13 伐木等機械運転業務             |
| 6 不整地運搬車運転          | 14 木育マイスター               |
| 7 フォークリフト運転業務(1t未満) | 15 狩猟免許(わな猟)※            |
| 8 荷役運搬機械等によるはい作業従事者 | 16 林業技能検定3級 ※            |

※別途資格試験を受ける必要があります。

〔問8〕現在、北森カレッジでは入学時の年齢を40歳までとしていますが、この年齢要件がない場合、貴社・団体が必要とする北森カレッジ卒業生の年齢条件として当てはまるものを選んでください(複数回答可)。

- |                                 |                                  |
|---------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 ~20代 | <input type="checkbox"/> 2 30代   |
| <input type="checkbox"/> 3 40代  | <input type="checkbox"/> 4 50代   |
| <input type="checkbox"/> 5 60代  | <input type="checkbox"/> 6 70歳以上 |

## 6 林業の技能検定制度について

※事業内容が「林業」「苗木生産」の方のみお答えください

令和6年度から、育林・素材生産作業に関する知識と技能を評価する国家試験「林業技能検定」がはじまりました。今年は全国2地域で試験が行われ、来年度以降はさらに拡大することが予定されています。実技試験及び学科試験の両試験に合格すると「林業技能士」を名乗ることができます。  
(参考) 一般社団法人林業技能向上センターHP <https://ringyou-gino.org/skill/>

〔問1〕「林業技能検定」について、貴社・団体のお考えに当てはまるものを選んでください(複数回答可)。

また、その理由についてお書きください。

- ☐ 1 社員に受検させたい
- ☐ 2 技能士を積極的に職員として採用したい
- ☐ 3 他の資格の取得状況もふまえて採用時に考慮したい
- ☐ 4 林業技能検定の必要性を感じない
- ☐ 5 わからない
- ☐ 6 その他 ( )

受検希望人数：

3級  人

2級  人

1級  人

(理由)

〔問2〕従業員が技能士に合格した場合について、貴社・団体のお考えに当てはまるものを選んでください。

(1つ選択)

- ☐ 1 昇給や諸手当の増額で処遇したい
- ☐ 2 他の資格の取得状況もふまえて処遇したい
- ☐ 3 賃金や諸手当に反映させない
- ☐ 4 わからない
- ☐ 5 その他 ( )

「木材産業」の方は  
「7 外国人材の活用について」へ

## 7 外国人材の活用について

外国人材の活用に向けては、林業・木材産業での制度整備が進められ、技能実習制度においては、林業分野で、令和6年から技能実習2号・3号での受入が可能となりました。また、特定技能制度においては、林業・木材産業が令和6年から特定技能1号での受入が可能となったところです。

(参考) 林野庁HP <https://www.rinya.maff.go.jp/j/routai/gaikoku.html>

<在留期間の例>

技能実習1号 1年 ⇒ 技能実習2号 2年 ⇒ 特定技能1号 5年

〔問1〕外国人材の受け入れについて、貴社・団体のお考えに当てはまるものを選んでください。また、その理由についてお書きください。(1つ選択)

- ☐ 1 受け入れる予定がある
- ☐ 2 受け入れに向けて検討中
- ☐ 3 受け入れる予定はない
- ☐ 4 わからない
- ☐ 5 その他 ( )

受入予定人数：

技能実習生  人

特定技能外国人  人

(理由)

〔問2〕 外国人材の活用に当たっての課題について、貴社・団体のお考えに当てはまるものを選んでください。

(複数回答可)

- ☐ 1 日本語能力・意思疎通
- ☐ 2 労働安全の確保
- ☐ 3 衣食住環境の確保
- ☐ 4 制度の詳細に関する情報が不足
- ☐ 5 人材を仲介できるコーディネーター等に関する情報が不足
- ☐ 6 技能実習生に行わせることができない作業がある
- ☐ 7 通年雇用するための業務量の確保
- ☐ 8 受入に必要な経費の負担
- ☐ 9 その他 ( )

## 8 事業の継続に向けて

〔問1〕 貴社・団体において、今後の会社経営を担う後継者等について、当てはまるものを選んでください。

(1つ選択)

- ☐ 1 事業を継続したいと考えており、既に後継者を決めている又は候補がいる
- ☐ 2 事業を継続したいが、後継者は決まっていない
- ☐ 3 事業を継続せずに、会社を譲渡したい
- ☐ 4 事業を継続せずに、廃業したい
- ☐ 5 その他 ( )

〔問2〕 事業の継続や承継・拡大に必要なものについて、当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

- |                                            |                                               |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 後継者となる人材の確保・教育  | <input type="checkbox"/> 2 従業員の処遇向上           |
| <input type="checkbox"/> 3 取引先との関係維持、新たな開拓 | <input type="checkbox"/> 4 事業承継や拡大に関する補助・助成制度 |
| <input type="checkbox"/> 5 企業経営にかかる金融制度    | <input type="checkbox"/> 6 法制度などの情報発信         |
| <input type="checkbox"/> 7 中小企業向けの相談窓口     | <input type="checkbox"/> 8 企業経営に関するセミナー       |
| <input type="checkbox"/> 9 その他 ( )         |                                               |
- (記載例)
- ・借入金・債務保証の引継ぎ
  - ・後継者への株式の移転

## 9 その他

〔問1〕 人材や事業体育成に関して、ご意見、ご要望等あればお書きください。

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 担い手に関するアンケート調査結果の要点

## 1 調査の目的等

|      |                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的   | 人材の育成・確保に関する事業体のニーズや考え方を把握・検証し、今後の施策に反映すること                                                    |
| 対象者  | ○ 林業 740者<br>※ 林業労働実態調査の対象事業体<br>○ 木材産業・加工業 177者<br>※ 製材・木材チップ工場動態調査、集成材工場動態調査、合単板工場動態調査の対象事業体 |
| 調査方法 | 各（総合）振興局産業振興部林務課を通じて対象者にアンケート票を送付し、Webシステムによる回答もしくは、電子データ、Fax、郵送により回収                          |
| 内容   | 従業員の確保状況、必要とする人材の要件、現場従業員の育成（※）、北森カレッジの取組、技能検定制度（※）、事業の継続<br>※林業に従事する（木材産業・加工業との兼業を含む）事業者を対象   |
| 調査期間 | 令和7年1月下旬～2月中旬                                                                                  |

## 2 回答状況

（参考）分野別回答

|     |       |    |
|-----|-------|----|
| 送付数 | 840   | ※1 |
| 回答数 | 220   |    |
| 回答率 | 26.2% |    |

※1 送付数：対象の重複を除外

| 分野           | 回答数 |               |
|--------------|-----|---------------|
| 全体           | 220 | (a) +(b) +(c) |
| 林業           | 180 | ※2            |
| うち林業専業       | 150 | (a)           |
| 木材産業・加工業     | 70  | ※3            |
| うち木材産業・加工業専業 | 40  | (b)           |
| 林業・木産業 兼業    | 30  | (c)           |

※2 林業：木材産業・加工業を兼ねる事業体を含む

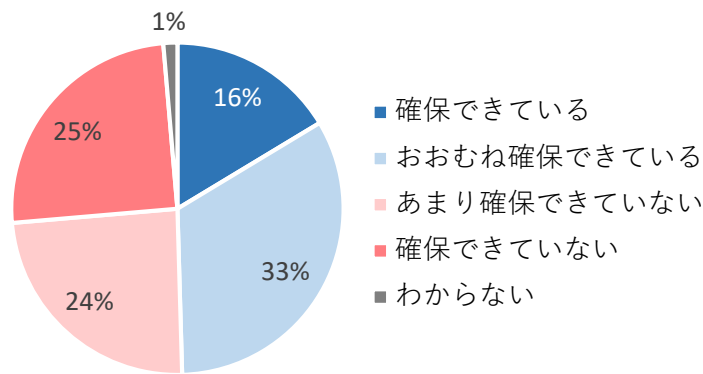
※3 木材産業・加工業：林業を兼ねる事業体を含む

3 集計結果（主なもの）

(1) 従業員の確保状況

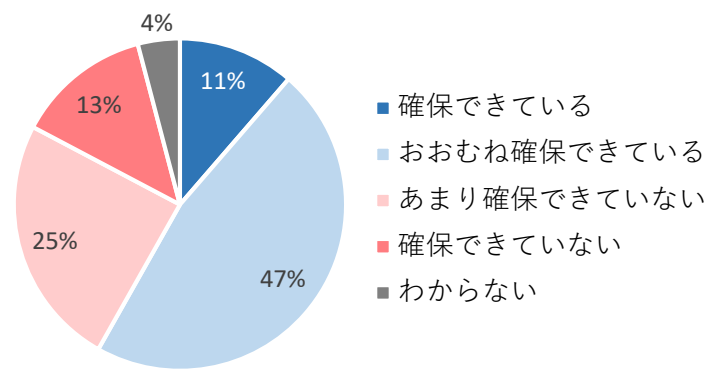
ア 人材の「数」の確保状況（n=220）

「確保できている」と「確保できていない」（おおむねを含む）と回答した割合が約50%ずつで同程度。



イ 人材の「質」の確保状況（n=220）

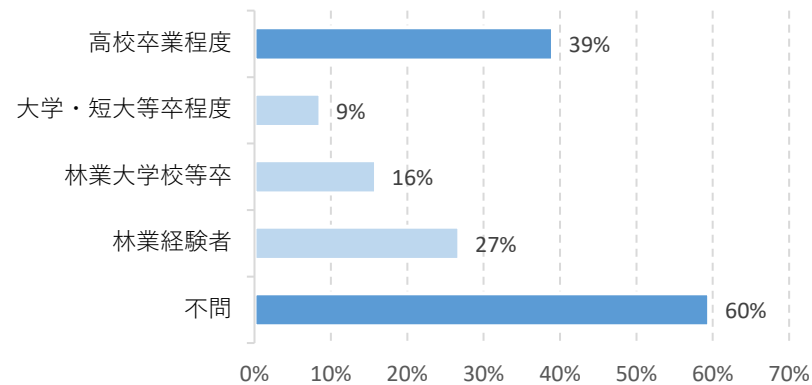
「おおむね確保できている」と回答した割合が、「人材の『数』」の同項目よりも高い。



(2) 必要とする人材の要件

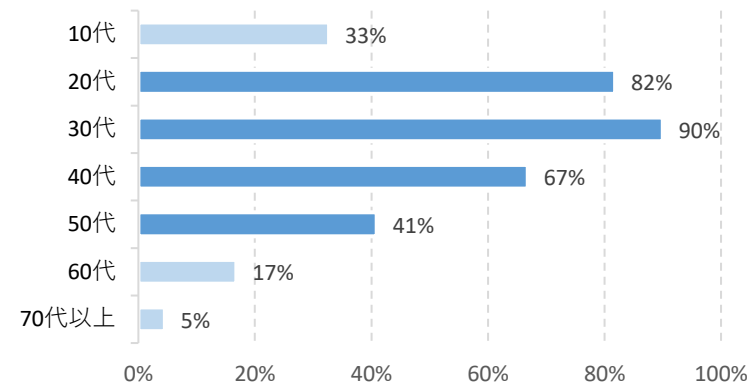
ア 学歴【複数回答】（n=220）

「不問」と回答した割合が最も高く、次いで「高校卒業程度」となっており、学歴は重視されていないと推察される。



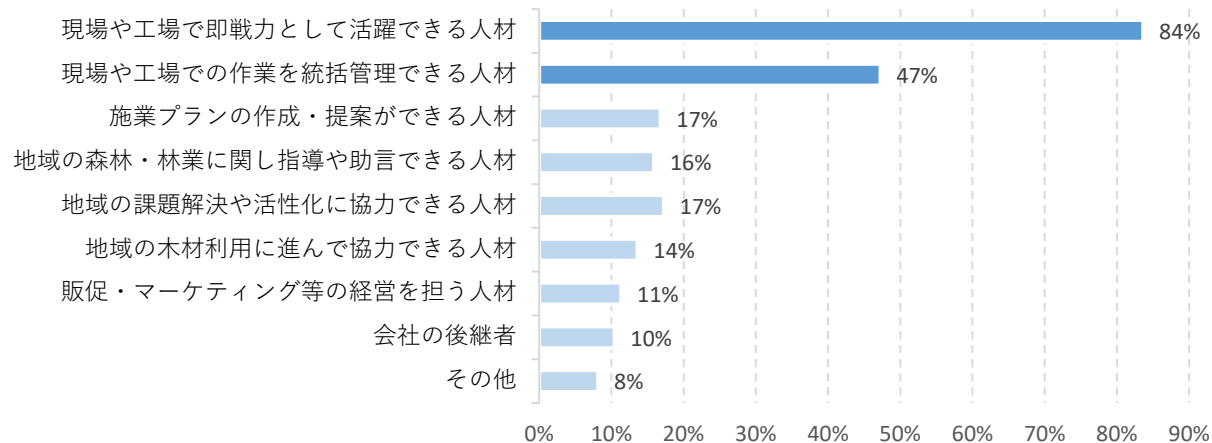
イ 年代【複数回答】（n=220）

「20代」、「30代」、「40代」と回答した割合が高く、「50代」とした回答も一定程度存在。



ウ 人材像 【複数回答】 (n=220)

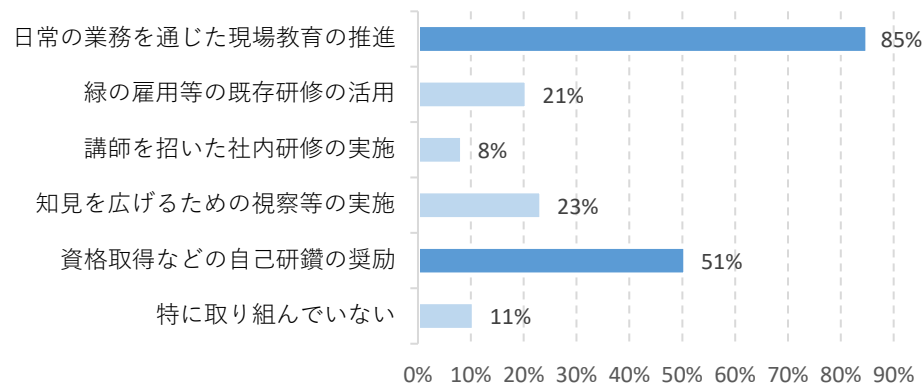
「現場や工場で即戦力として活躍できる人材」と「現場や工場での作業を統括管理できる人材」に対するニーズが高く、現場作業に直接関わる人材が求められていることがうかがえる。



(3) 林業の現場従業員の育成 <林業を実施する事業体にのみ聴取>

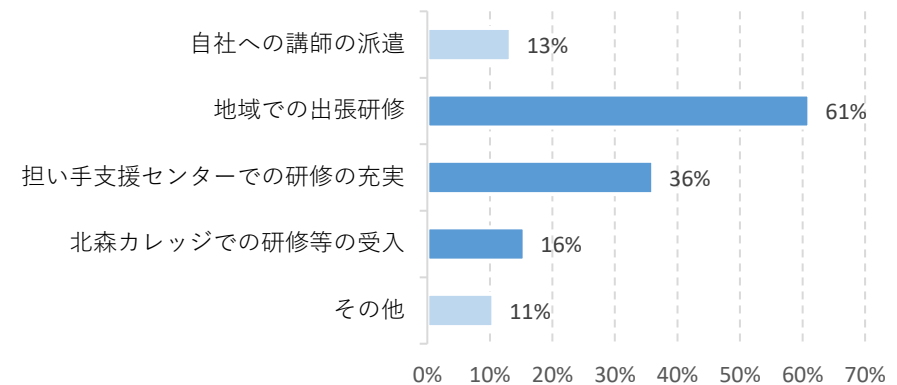
ア 育成方法 【複数回答】 (n=180)

「日常の業務を通じた現場教育の推進」及び「資格取得などの自己研鑽の奨励」の割合が高く、人材育成を組織内で行う事業体が多い傾向がうかがえる。



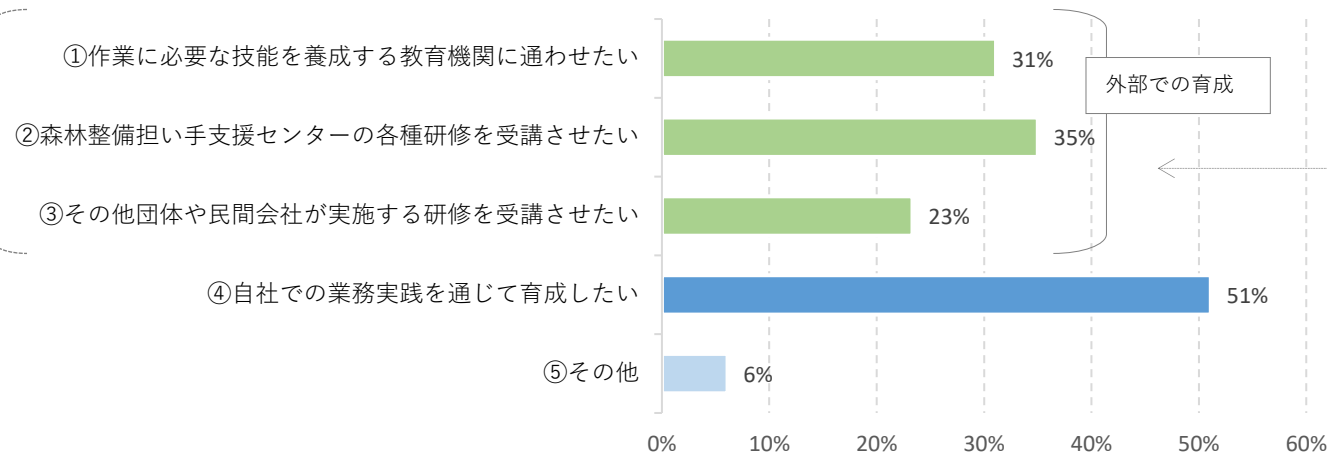
イ 道に期待する従業員の(再)教育の支援施策 【複数回答】 (n=180)

「地域での出張研修」に対するニーズが最も高く、次いで、「担い手支援センターでの研修の充実」、「北森カレッジでの研修等の受入」が望まれている。



ウ 新規採用者の育成方針【複数回答】 (n=180)

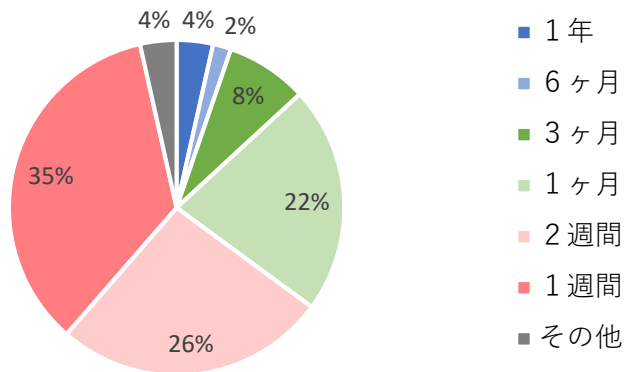
「自社での業務実践を通じた育成」とする回答割合が最も高いが、教育機関・担い手支援センター・関係団体や民間会社など、外部の協力を得て育成したいとする回答も一定程度存在。



エ 新規採用者の育成で、業務を離れて研修等に参加させることができる期間 (n=114)

→ ウで①～③を選択した対象に聴取

「1週間」とする回答割合が最も高く、80%以上が1ヶ月以内の選択肢を選択。

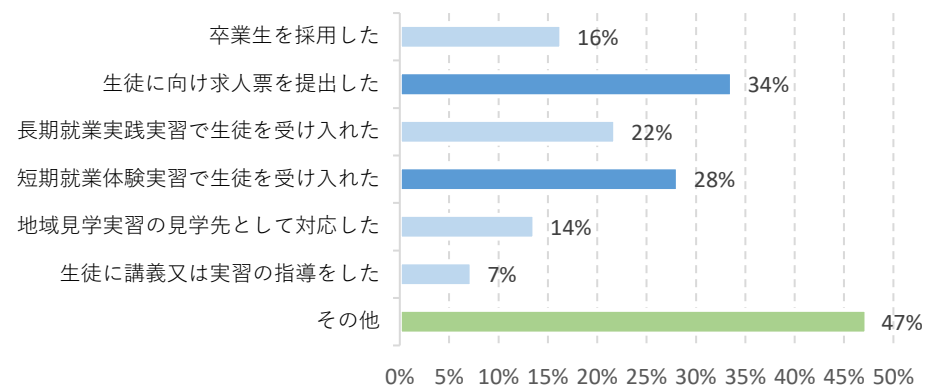


「将来的に企業等の中核を担う人材の育成」でも同様の傾向。  
(詳細：アンケート結果概要を参照)

#### (4) 北森カレッジについて

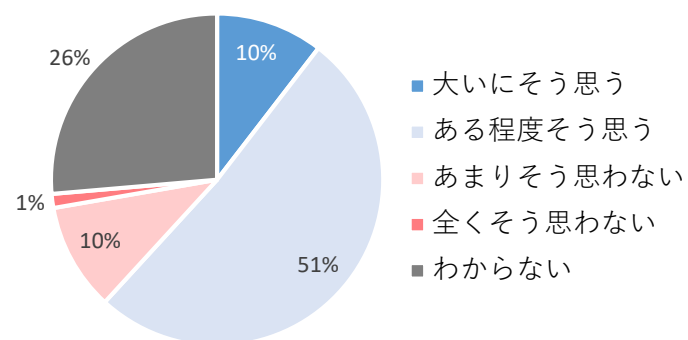
##### ア 北森カレッジとの関わり【複数回答】 (n=220)

「その他」の割合が最も高く、内容は「該当項目なし」とするものが主。  
また、「求人票提出」、「長期就業実習」の割合が他の項目よりやや高い。



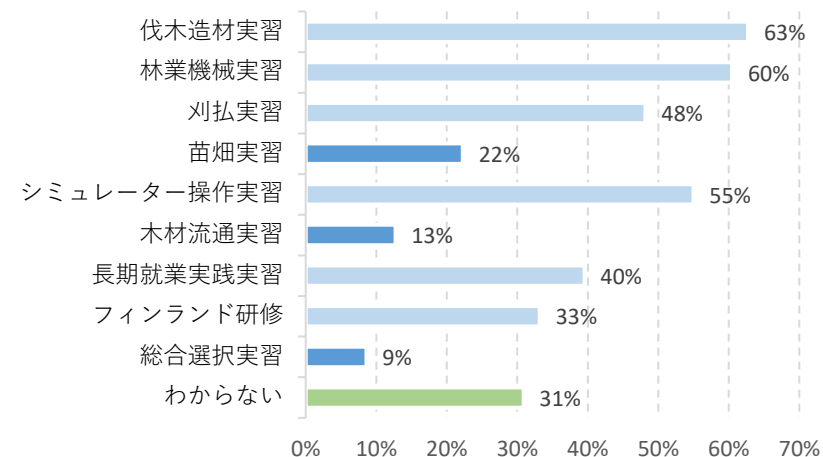
##### ウ 教育内容：「即戦力となる人材」の育成 (n=220)

「大いにそう思う」もしくは「ある程度そう思う」と回答した割合が高く、一定の評価を得ているものと考えられる。



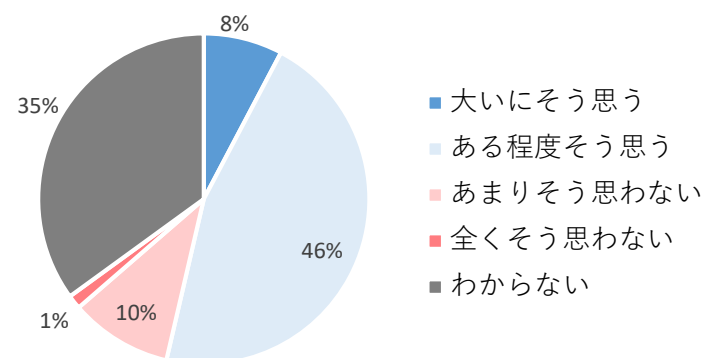
##### イ 北森カレッジのカリキュラム認知【複数回答】 (n=220)

「わからない」の割合が比較的高いのは、アの設定で「その他」の割合が高いことが一因とかがえる。また、「木材流通」、「総合選択実習」、「苗畑実習」の認知が他の項目と比較してやや低い。



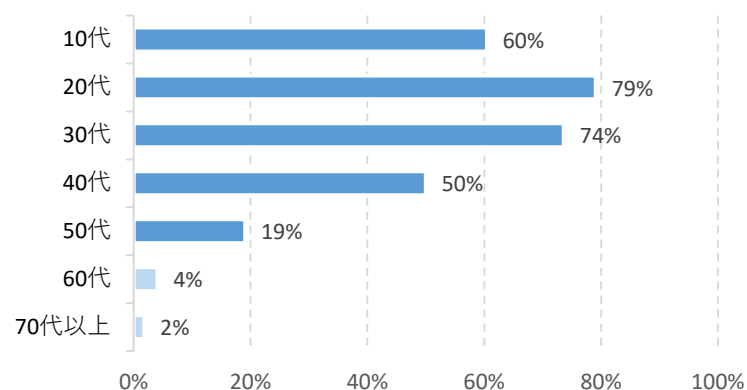
##### エ 教育内容：「将来的に企業等の中核を担う人材」の育成【複数回答】 (n=220)

「大いにそう思う」もしくは「ある程度そう思う」と回答した割合が高く、一定の評価を得ているものと考えられる。



オ 入学生の年齢制限（現40歳以下）がない場合の上限年齢【複数回答】（n=220）

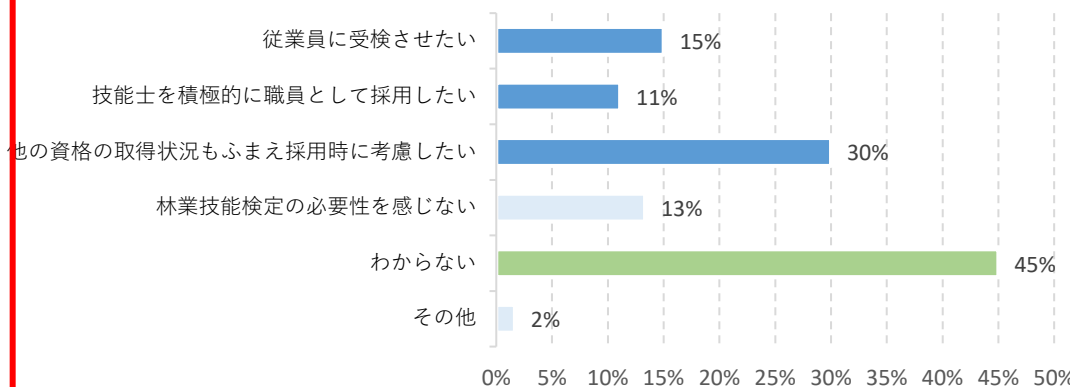
「10代」から「40代」と回答した割合が高いが、「50代」という回答も一定数存在する。



（5）林業の技能検定制度 <林業を実施する事業体にのみ聴取>

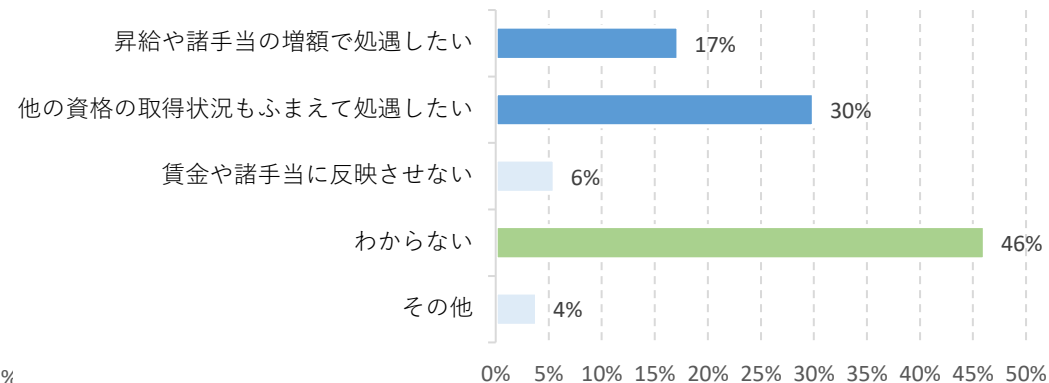
ア 技能検定に対する考え【複数回答】（n=180）

「わからない」が最多である一方、「従業員に受験させたい」、「技能士を採用したい」、「採用時に考慮したい」という意向も一定程度存在。



イ 従業員が技能検定に合格したときの対応【複数回答】（n=180）

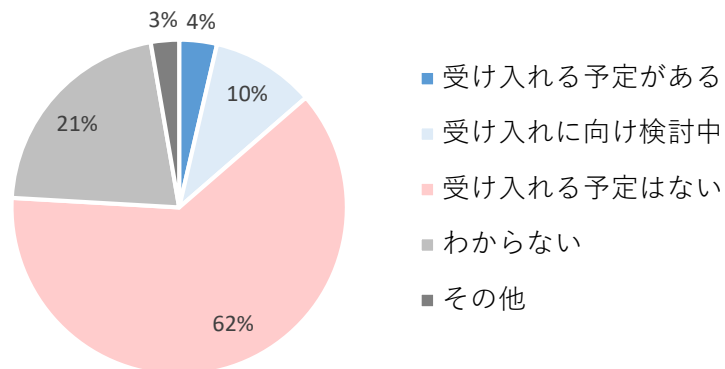
「わからない」が最多である一方、「昇給等で処遇」、「他の資格もふまえて処遇」する意向も一定程度存在。



## (6) 外国人材の活用

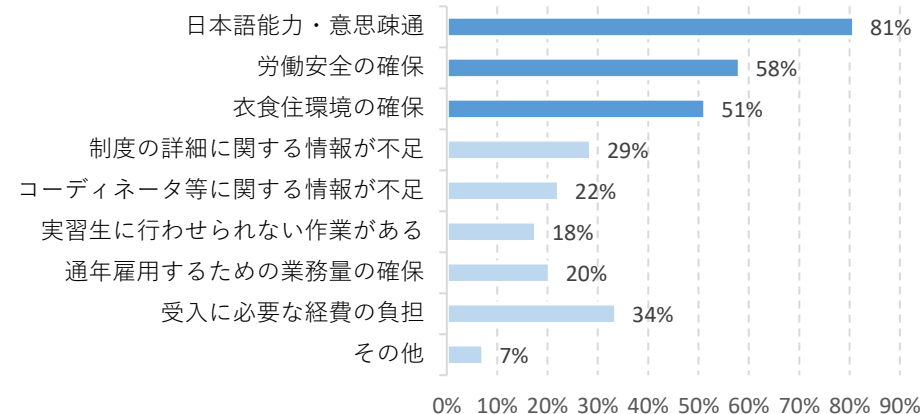
ア 外国人材の受入に対する意向 (n=220)

「受入予定なし」が最多。



イ 外国人材の活用に関する課題【複数回答】 (n=220)

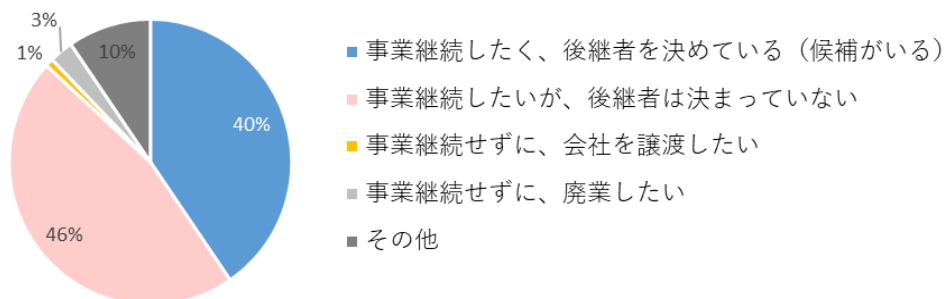
「日本語能力・意思疎通」、「労働安全の確保」、「衣食住環境の確保」といった身近な項目が多く選択されている。



## (7) 事業の継続

ア 会社・団体の今後の経営 (n=220)

「事業を継続したいが、後継者は決まっていない」と回答した割合が最も高く、今後、後継者不足に陥る事業体が増加する可能性。



イ 事業の継続や承継・拡大に必要なもの【複数回答】 (n=220)

アの回答を反映し、「後継者となる人材の確保・育成」が最多。「従業員の処遇向上」及び「取引先との関係維持・開拓」の割合も高い。

